

所員活動一覧

雑誌名	日文研
巻	66
ページ	L26-L48
発行年	2021-09-30
URL	http://doi.org/10.15055/00007717

所員活動一覧（2020年4月1日～2021年3月31日）

荒木 浩

●著書

『説話文学研究の最前線 説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録』（説話文学会編）文学通信 2020 年 9 月 366 頁

『古典の未来学—Projecting Classicism』（編）文学通信 2020 年 10 月 871 頁（複数言語）

『環太平洋から「日本研究」を考える』（「国際日本研究」コンソーシアム編 [白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダンと共編]）国際日本文化研究センター 2021 年 3 月 192 頁（複数言語）

●論文

「身を投げる／子を投げる—孝と捨身の投企性をめぐって」『古典の未来学—Projecting Classicism』（著書欄参照）181 頁～214 頁

「希求される〈作者〉性——物語という散文の成立をめぐって」ハルオ・シラネ、鈴木登美、小峯和明、十重田裕一著『〈作者〉とは何か—継承・占有・共同性』岩波書店 2021 年 3 月 79 頁～99 頁（依頼論文・査読付き）

●その他の執筆活動

「文遊回廊 29 回 今昔物語集 卷二十二 高藤ノ内大臣ノ語 第七」『京都新聞』2020 年 4 月 23 日

書評「時空をあおぐ、伝承の海」『『日本説話索引』パンフレット』清文堂出版 2020 年 5 月

「文遊回廊 30 回 大和物語 第百六十五段」『京都新聞』2020 年 5 月 28 日

「もう一歩先の古典読解—古代・中世文学の向こう側—」京都府立高等学校国語科研究会編『研究会誌』No. 30（令和元年度版（デジタル））京都府立高等学校国語科研究会 2020 年 7 月

「はがき通信」日本歴史学会編『日本歴史』吉川弘文館 2020 年 9 月

解説「時空を翔る、ベトナム俳句の未来像」グエン・ヴァー・クイン・ニュー編『句集『俳句と四季』』Nhà xuất bản: NXB Văn Hóa - Văn Nghệ 2020 年 10 月（複数言語）

「映画『羅生門』生んだ玉手箱」『京都新聞』2021 年 2 月 12 日

エッセイ「仏陀の夢と非夢—西行伝への示唆をもとめて」小峯和明編『東アジアに共有される文学世界 東アジアの文学圏』東アジア文化講座 3 文学通信 2021 年 3 月

石上 阿希

●著書

『江戸のことは絵事典—『訓蒙図彙』の世界』KADOKAWA 2021 年 3 月 349 頁

『文化・情報の結節点としての図像—絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』
(山田奨治と共編著) 晃洋書房 2021年3月 146頁

●論文

『訓蒙図彙』諸本再考」『文化・情報の結節点としての図像—絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』(著書欄参照) 13頁～25頁(査読付き)

●その他の執筆活動

会議報告等「図像と言葉で調べる：「近世期絵入百科事典データベース」の構築」『大正イマジュリィ』No.15 大正イマジュリィ学会 2020年5月
「春画研究の闘士ありき 林美一と「国貞裁判」」『芸術新潮』新潮社 2020年9月
「文化をつなげる場としての展覧会 ロンドン大学 SOAS・大英博物館の国際共同研究プロジェクトを事例として」荒木浩編『古典の未来学—Projecting Classicism』文学通信 2020年10月

石川 肇

●著書

『競馬にみる日本文化』法蔵館 2020年10月 160頁

●その他の執筆活動

「岩上力が語る、新国劇の殺陣と緒形拳」東海大学文明研究所、横浜市歴史博物館編『戦後大衆文化史の軌跡—緒形拳とその時代—』公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 2020年10月

インタビュー「奥深い、文化としての競馬」『長崎新聞』他2紙掲載 2020年10月23日他

インタビュー「競馬にみる日本文化」『朝日新聞』他4紙掲載 2020年11月21日他

インタビュー「日本文化を競馬で語る」『京都新聞』他2紙掲載 2020年12月18日他

エッセイ「時代劇は京都文化であり日本文化—フィールド調査型の時代劇研究が構築するテクスチャー」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年2月

インタビュー「文化として競馬伝える」『愛知新聞』 2021年2月13日

インタビュー「森嶋外の未発表書簡24通発見」『京都新聞』 2021年3月18日

磯田 道史

●著書

『感染症の日本史』文藝春秋 2020年9月 255頁

『マンガでわかる災害の日本史』(河田恵昭・防災監修、備前やすのり・マンガ) 池田書店 2021年2月 256頁

『この1冊、ここまで読むか！ 超深掘り読書のススメ』(鹿島茂、出口治明、

成毛眞、楠木建、内田樹、高橋源一郎と共著）祥伝社 2021年2月 264頁

●論文

「『糞』の生態史でみた江戸時代（特集 生き物と現代文明）」国立民族学博物館友の会編『季刊民族学』175号 2021年冬 公益財団法人千里文化財団 2021年1月 40頁～43頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

「感染症の日本史」（連載6回）『文藝春秋』98(5)～(10) 2020年4月～9月

「磯田道史の古今をちこち」（連載12回）『読売新聞』 2020年4月8日～2021年3月17日

書評「馬部隆弘著『椿井文書 日本最大級の偽文書』」『毎日新聞』 2020年4月25日

「オンライン座談会 コロナ禍を生きるには 知恵と共助、希望の道」（平野啓一郎、富永京子と／構成・棚部秀行、須藤唯哉、毎日新聞社）『毎日新聞』 2020年5月5日

インタビュー 「終わらないパンデミックはない」磯田道史さんと疫病史」（聞き手・宮地ゆう、朝日新聞社）『朝日新聞 DIGITAL』 2020年5月7日

「日本社会のコロナ・ディスクロージャー」『Bunshun Woman』vol. 6 2020夏号 文藝春秋 2020年6月

書評「池谷和信編『ビーズでたどるホモ・サピエンス史 美の起源に迫る』」『毎日新聞』 2020年6月27日

「Opinion Leader's VOICE 磯田道史さん」『Oggi』2020年9月号 小学館 2020年7月

「疾病の日本史③攘夷思想を燃え上がらせた幕末のコレラ」『日本経済新聞』 2020年7月1日

「日本人は「はやり病」とどう向き合ってきたか」『日本経済新聞』 2020年7月4日

「感染症の歴史に学ぶ教訓」『TKC』2020年8月号 TKC全国会 2020年8月

「あらゆる分野で持続可能な体制づくりを」『京都新聞』日曜版 2020年8月2日

書評「堀新、井上泰至編『信長徹底解説』」『毎日新聞』 2020年8月29日

書評「高橋博巳編『浦上玉堂 白雲も我が閑適を羨まんか』」『毎日新聞』 2020年10月17日

インタビュー 「著者に聞いてみた！（感染症の日本史）」『アサヒ芸能』通巻3766号 2020年11月

書評「瀧井一博編著『「明治」という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』」『毎日新聞』 2020年12月5日

書評「2020年「この3冊」／下」『毎日新聞』 2020年12月19日

「高島礼子の歴史と美を訪ねて（第5回・第6回）スペイン風邪に学ぶ教訓」（高島礼子と共著）『潮』744・745 潮出版社 2021年1月～2月

「信玄公に学ぶ」『山梨日日新聞』 2021 年 1 月 1 日
 「追悼 半藤一利さん」『読売新聞』 2021 年 1 月 14 日
 「悠仁さまに伝えた「空襲体験」（さようなら、半藤一利さん）」『文藝春秋』
 99(3) 2021 年 2 月
 「歴史家・磯田道史 半歩遅れの読書術」（連載 4 回）『日本経済新聞』 2021
 年 2 月 6 日～2021 年 2 月 27 日
 書評「久保田哲著『明治十四年の政変』」『毎日新聞』 2021 年 2 月 13 日
 インタビュー「今は震災「後」でなく「間」」（聞き手・多可政史）『読売新聞』
 2021 年 3 月 4 日
 インタビュー「人生のとき 好きな本求め、再受験 歴史学者・磯田道史さ
 ん」『毎日新聞』（夕刊） 2021 年 3 月 10 日
 「災害生きのびる知恵 歴史に学ぼう」『毎日小学生新聞』 2021 年 3 月 21 日

磯前 順一

●著書

『これからの天皇制 令和からその先へ』（原武史、菅孝行、島蘭進、大澤真幸、
 片山杜秀と共著）春秋社 2020 年 11 月 272 頁

●論文

「石母田正 転向と革命 一三木清・羽仁五郎・平泉澄一」『歴史評論』847 歴
 史科学協議会 2020 年 10 月 17 頁～29 頁（査読付き）

「神がかり・通俗道徳・資本主義の精神——安丸良夫の民衆思想史から見た日
 本の近世・近代」『アリーナ（ARENA）』23 中部大学 2020 年 11 月 424
 頁～430 頁（査読付き）

「世俗主義批判としての翻訳不能論——タラル・アサド『世俗の翻訳』（2018）
 を読む——」（ゴウランガ・チャラン・プラダンと共著）『アリーナ（ARENA）』
 23 中部大学 2020 年 11 月 771 頁～784 頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「2019 年度日文研海外シンポジウム「ポストコロニアル研究の遺産——翻訳不
 能なものを翻訳する」」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研
 究センター 2020 年 7 月

伊東 貴之

●論文

「「礼教」的滲透、泛化及其展开——以中国为中心的近代東亜の事例」常建華主
 編『『中国社会歴史評論』（Chinese Social History Review）』25 天津古籍出
 版社 2020 年 11 月 215 頁～225 頁（中国語）

●その他の執筆活動

書評「書かれてある「物（モノ）」への愛着×拘泥×使喚—〈和声〉の系譜を

切り崩す、即物的な批評の生成する現場：〔書評〕渡部直己『日本小説批評の起源』『週刊読書人』3354号 2020年8月

「武漢発・新型コロナウイルス（COVID-19）が分断する世界——米中・中台関係に走る亀裂と軋轢、そして香港問題の行方【2020年：中国文学・文化年末回顧】」『図書新聞』3476号 武久出版 2020年12月

エッセイ「徐興慶先生の学問と実践——「国際日本研究」コンソーシアム編『荒木浩、白石恵理、松本裕美、ゴウランガ・チャラン・ブラダン編』『環太平洋から「日本研究」を考える』国際日本文化研究センター 2021年3月
書評「呂玉新『政治体制・文明・民族（エスニシティ）の辨別——徳川日本思想史』／呂玉新『政體・文明・族群之辯——徳川日本思想史』」『日本研究』第62集 国際日本文化研究センター 2021年3月

稲賀 繁美

●論文

“Weg (Dō)-Rahmenlosigkeit-Verlauf: Eine Reflexion auf ‚Japanisches‘ in der Kunst.” Yasuhiro Sakamoto, Felix Jäger, and Jun Tanaka(Hrsg.) eds., *Bilder Als Denkformen: Bildwissenschaftliche Dialoge Zwischen Japan Und Deutschland. Berlin*, De Gruyter, June 2020. pp. 127-144. (依頼論文・査読付き) (ドイツ語)

(30)

“Cultural Gap, Mental Crevice, and Creative Imagination: Vision, Analogy, and Memory in Cross-Cultural Chiasms.” Tanehisa Otabe, Manfred Milz, Masanori Tsukamoto, Carole Maigné, James Kirwan, Gunter Gebauer, and Sean J. McGrath eds., *Journal of Aesthetics and Phenomenology* (online), Volume. 6, 2019, Taylor & Francis, June 2020, pp. 167-184. (依頼論文・査読付き)

「タイムカプセルとしてのミュージアム—魂の群れ映し遷す器として」川口幸也編『ミュージアムの憂鬱』水声社 2020年6月 389頁～403頁 (依頼論文・査読付き)

「寄せては返す波のように—クールベの画業を政治遊戯と風景への対峙との振幅に捉える」鈴木一生、小坂井玲、森川もなみ、古賀暁子編 展覧会図録『クールベと海—フランス近代 自然へのまなざし—』ふくやま美術館、山梨県立美術館、パナソニック汐留美術館 2020年9月 6頁～11頁 (依頼論文)

“Distance Reading, Migration of the Meaning and Metempsychosis through Translation: Is “World Literature or Global Art” Possible? -Comparative Literature and Art in the Context of the Globalization-” 荒木浩編『古典の未来学—Projecting Classicism』文学通信 2020年10月 836頁～849頁 (依頼論文・査読付き) (複数言語)

「欧州航路からインターネットへ——日仏美術相互交流の150年」『CONNECTIONS 海を越える憧れ、日本とフランスの150年』公益財団法人ポーラ美術

- 振興財団 ポーラ美術館 2020年11月 6頁～10頁（依頼論文・査読付き）
- “A.K. Coomaraswamy and Japan: A tentative overview.” Madhu Bhalla ed., *Culture as Power: Buddhist Heritage and the Indo-Japanese Dialogue*, Routledge India, December 2020, pp. 119–132.（依頼論文・査読付き）
- 「特集＊鳥獣戯画の世界 ウサギの跳躍 《鳥獣戯画》からの脱線の企て」『ユリイカ』第53巻第4号 青土社 2021年3月 272頁～281頁（依頼論文）
- 「世界のなかの国際日本研究を再考する：国際日本文化研究センター創立30周年記念シンポジウム「世界のなかの日本研究 批判的提言を求めて」の反省から」井上章一編『世界の中の日本研究 批判的提言を求めて（創立30周年記念国際シンポジウム）』国際シンポジウム53 国際日本文化研究センター 2021年3月 247頁～257頁
- “You Say Libert ,  galit , Fraternit ? Japanese Critical Perceptions of the Idea of Europe: A Preliminary Reflection for the Regeneration of Universal Humanism,” Vladimir Biti, Joep Leerssen, and Vivian Liska eds., *The Idea of Europe: the clash of projections*, Volume: 37, Brill, March 2021, pp. 121–135.（依頼論文・査読付き）
- その他の執筆活動
- 「不世出の文化外交の達人・芳賀徹 その軌跡を追慕する——海外での交友関係の一端を導きに 追悼 芳賀徹」『図書新聞』3442号 武久出版 2020年4月
- 書評「「焰の埧場による造形の変容——器に接して脱皮を遂げる彫刻の姿」廣田治子著『中空の彫刻——ポール・ゴーギャンの立体作品に関する研究』三元社」『図書新聞』3447号 武久出版 2020年5月
- 「スポーツとはなにか——「呪われたオリンピック」延期を前に立ち止まって考える」『図書新聞』3446号 武久出版 2020年5月
- 「「永遠の今」において遭遇する「我と汝」——西田幾多郎と九鬼周造の「偶発」的読み直しにむけて」『図書新聞』3453号 武久出版 2020年6月
- 「個の喪失と文学的磁場の生成——テキスト遺産の顕現と変容を欧米の眼差しから吟味する」『図書新聞』3461号 武久出版 2020年8月
- “Obituary: T ru Haga (1931–2020)” “N crologie : T ru Haga (1931–2020)” *AJCL-ICLA NEWSLETTER* No. 4, International Comparative Literature Association, September 2020.（複数言語）
- エッセイ「「パンデミック」は何の予兆なのか？—身近な「悔い改め」への舵取りのために」『日文研』65号 国際日本文化研究センター 2020年9月
- 「「あいだ」の哲学に向けて：人文知の再定義と復権のために 藝術行為再考に向けた、暫定的な覚え書き（上）」『あいだ』第255号 『あいだ』の会 2020年9月
- 「「あいだ」の哲学に向けてくもの巣の「穴」をねらう：人文知の再定義と復権のために 藝術行為再考に向けた、暫定的な覚え書き（中）」『あいだ』第

256号『あいだ』の会 2020年11月

“Les Yeux clos d’Odilon Redon à Tôru Takemitsu: d’un œil à l’autre, ou le rêve en transmigration et l’apparition de l’esprit.” Sarah Burkhalter & Laurence Schmidlin, éd. *The Postcard Dialogues*, art&fiction, November 2020. (フランス語)

「ブルデュー『マネ、ひとつの象徴革命』余滴 藤原良雄編『機』 藤原書店
2020年12月

項目執筆「ニューアートヒストリーと、その後」美学会編『美学の事典』丸善
出版 2020年12月

項目執筆「オリエンタリズムと美術——西洋は東洋をどう見たのか」美学会編
『美学の事典』丸善出版 2020年12月

「追悼 金子務 自然科学と隣接領域の最先端を、知の未踏査圏に繋ぐ名人」
『図書新聞』3481号 武久出版 2021年1月

「『絵巻物がマンガの起源』という「謬見」は、いかにして発生したのか——
映画アニメの隆盛が週及的に再発見？した絵巻物の説話的文法：ひとつの挿
話」『図書新聞』3479号 武久出版 2021年1月

書評「『現代に蘇る浦上玉堂の琴興・詩作・席画——十八世紀後半から十九世
紀初年にいたる日本列島の知的雰囲気を目前に彷彿とさせる』高橋博已著
『浦上玉堂——白雲も我が閑適を羨まんか』ミネルヴァ書房」『図書新聞』
3482号 武久出版 2021年2月

書評「愚行の撲滅を目指すことに勝る愚行はない 零落の供笑か供笑の零落か
(上)——四方田犬彦著『愚行の賦』(講談社)へのマルジナリア」『図書新
聞』3486号 武久出版 2021年3月

エッセイ「退職にあたり 辞職の辞——「辞職」する者が、職場に伝言を遺して
行く、というのは、妙ですね」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本
文化研究センター 2021年3月

書評「愚行の撲滅を目指すことに勝る愚行はない 零落の供笑か供笑の零落か
(下)——四方田犬彦著『愚行の賦』(講談社)へのマルジナリア」『図書新
聞』3487号 武久出版 2021年3月

会議報告等「海洋と環太平洋・島嶼を視野におさめた次世代の研究計画に向け
て——総括討論の司会をつとめて」「国際日本研究」コンソーシアム編「荒
木浩、白石恵理、松本裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン編」『環太平
洋から「日本研究」を考える』国際日本文化研究センター 2021年3月

書評「鈴木貞美『歴史と生命 西田幾多郎の苦闘』作品社 二〇二〇年三月
十五日刊」『日本哲学史研究』第17号 2021年3月

会議報告等「総研大文化フォーラムの評価と展望」『総研大文化フォーラム
2020報告集：文化のレジリエンスとは？：〈異〉をつなぎ、未来へ』 2021
年3月

「追悼 芳賀徹：「絵好き」な国際的比較文化論者の足跡を追う——学会発足の頃から最近まで」『ジャポニスム研究』第40号 2021年3月

井上 章一

●著書

『京都まみれ』朝日新聞出版 2020年4月 248頁

『討厌的京都（京都ぎらい）』（龚婷译訳）海口南海出版公司 2021年3月 165頁（中国語）

『世界の中の日本研究 批判的提言を求めて（創立30周年記念国際シンポジウム）』国際シンポジウム53（編著）国際日本文化研究センター 2021年3月 261頁

●論文

「도우미 Companion 가 여간수로 불렸던 무렵（コンパニオンが女看守とよばれたころ）」佐野真由子、陸榮洙編『만국박람회와 인간의 역사（万国博覧会と人間の歴史）』소명출판（ソミョン出版）2020年7月 249頁～274頁（韓国語）

「建築家と万国博覧会 EXPO'70の黒川紀章から考える」佐野真由子編『万博学 万国博覧会という、世界を把握する方法』思文閣出版 2020年8月 335頁～347頁（依頼論文）

「史料と建築様式の矛盾を克服する一法隆寺の再建をめぐる一」佐藤文子、吉田一彦編『日本宗教史6 日本宗教史研究の軌跡』吉川弘文館 2020年10月 144頁～166頁（依頼論文）

「建築と都市から見える明治維新一街並にブルジョワ革命の跡を読む一」瀧井一博編著『「明治」という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』ミネルヴァ書房 2020年10月 73頁～88頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

書評「この人に訊け！」（連載7回）『週刊ポスト』2020年4月～2021年2月

「わが人生最高の10冊」『週刊現代』4月4日号 2020年4月

「東西まちまち」（連載7回）『読売新聞』2020年4月5日～2020年9月6日

「海の向こうで日本は。」（連載22回）『産経新聞』（夕刊）2020年4月6日～2021年3月15日

インタビュー「ええやん！かんさい 万博と私」『読売新聞』（夕刊）2020年4月9日

対談「「京都アカデミックブリッジ」始まる」（瀧井一博、呉座勇一と）『京都新聞』2020年4月10日

対談「国際日本文化研究センター 新旧所長対談」（小松和彦と）『京都民報』2020年4月12日

インタビュー「一聞百見」（連載3回）『産経新聞』2020年5月12日～2020

年5月14日

「おおきに！関西 虎フィーバー とらわれぬ日々」『朝日新聞』（夕刊）2020年5月28日

「悼む 井波律子さん」『毎日新聞』2020年6月22日

「こころの玉手箱」（連載5回）『日本経済新聞』（夕刊）2020年6月22日～2020年6月26日

書評「『遊郭』に見る数寄屋とアール・デコ」渡辺豪『遊郭』新潮社とんぼの本』『波』2020年7月号 新潮社 2020年7月

インタビュー「日本人とは何者か～これまでの常識を覆す」『サライ』2020年8月号 2020年7月

「ひととく 井波律子さんを悼む」『朝日新聞』2020年7月1日

インタビュー「関西のミカタ 「面白い大阪」 近年の加工」『日本経済新聞』（夕刊）2020年8月12日

「狩野元信とミケランジェロ」『公研』9月号 公益産業研究調査会 2020年9月

「飲み屋の写真家―甲斐斐佐義の可能性―」『KYOTOGRAPHIE 2020 catalogue』KYOTOGRAPHIE 2020年9月

“Kai Fusayoshi, nomiya photographer,” *KYOTOGRAPHIE 2020 catalogue*, KYOTOGRAPHIE, September, 2020.

「トイレはそんなに「悪い」のか」『サンデー毎日』2020年9月20日号 2020年9月

“The irony of phasing out plastic bags and disposing of masks.” *The Japan News*, September 12, 2020.

「靴と日本―土足のゆくえ」『修親』10月号 修親刊行事務局 2020年10月

「京都の端から、こんにちは」（連載6回）『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2020年10月～2021年3月

「東西まちまち・番外編」『読売新聞オンライン エンタメ・文化』2020年10月4日

「今、美術の時間に何ができるのか。」『教育美術』11月号 公益財団法人教育美術振興会 2020年11月

講演資料等「京都の、いわゆるイケズを考える」『兵庫県高齢者放送大学』12月号 公益財団法人兵庫県生きがい創造協会 2020年12月

「第24回司馬遼太郎賞選評」司馬遼太郎記念館会誌『遼』2021年冬号（第78号）公益財団法人司馬遼太郎記念財団 2021年1月

「ひとりで、京都。」『あまから手帖』2021年3月号 2021年2月

「店先のマスコット」日本サインデザイン協会編『Signs』17号 日本屋外広告業団体連合会 2021年3月

対談「大和ハウス生活文化フォーラム誌上特別企画「住まいと暮らしの不易流

行を考える」(鷺珠江、土井善晴、石津祥介と)『文藝春秋』2021年3月号
2021年3月
「靴と日本」『公研』3月号 公益産業研究調査会 2021年3月
インタビュー「リーダーに聞く」『NIHU Magazine』Vol. 062 人間文化研究機
構 2021年3月
「世界のひろがる著述群」『山田慶児著作集の刊行に寄せて』臨川書店 2021
年3月
インタビュー「井上章一・国際日本文化研究センター所長に聞く」『日本経済
新聞』(夕刊) 2021年3月29日

牛村 圭

●論文

「東京裁判を知るための10冊：東京裁判の核心をつかむために」『昭和史がわ
かるブックガイド』文藝春秋 2020年5月 206頁～217頁(依頼論文)
「明治日本が見たストックホルムオリンピック：嘉納治五郎の大会報告を読み
なおす」瀧井一博編著『「明治」という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』
ミネルヴァ書房 2020年10月 339頁～355頁(依頼論文)
「国際日本研究とJapanese studiesを架橋する——序に代えて」「国際日本研究」
コンソーシアム編「荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・
ブラダン編」『環太平洋から「日本研究」を考える』国際日本文化研究セン
ター 2021年3月 1頁～7頁(依頼論文)

●その他の執筆活動

「「環太平洋学術交流会議」を終えて」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際
日本文化研究センター 2020年7月
インタビュー「人コミュ通信 vol.12 戦後75年、東京裁判をどう考えるか—牛
村教授インタビュー」『国際日本文化研究センターウェブサイト』国際日本
文化研究センター 2021年8月

榎本 渉

●著書

『僧侶と海商たちの東シナ海(増訂版)』講談社 2020年10月 321頁

●論文

「龍山徳見の入元と黄龍派の再興」『禅文化』256号 2020年4月 31頁～40
頁(依頼論文)
「日宋・日元貿易船の乗員規模」『国立歴史民俗博物館研究報告』第223集
2021年3月 9頁～30頁(依頼論文・査読付き)

●その他の執筆活動

「成果なき者たちを思う」『本』45巻11月号 2020年11月

大塚 英志

●著書

『まんが訳酒吞童子絵巻』（監修、山本忠宏と共著）筑摩書房 2020年5月
222頁

『TOBIO Critiques #4』（編集、秦剛、宣政佑と共著）太田出版 2020年7月
112頁

『日本大衆文化史』（日文研大衆文化研究プロジェクト編著）KADOKAWA
2020年9月 358頁

『文学国語入門』星海社 2020年10月 334頁

『牧野守 在野の映画学』（近藤和都、森田のり子と共編）太田出版 2021年
1月 352頁

『日本大衆文化論アンソロジー』（日文研大衆文化研究プロジェクト編 [編集
委員：伊藤慎吾、内田力、佐野明子、大塚英志]）太田出版 2021年2月
320頁

『「暮らし」のファシズム——戦争は「新しい生活様式」の顔をしてやってきた』
筑摩書房 2021年3月 352頁

『恋する民俗学者1 柳田國男編』（中島千晴と共著）KADOKAWA 2021年3月
832頁

『恋する民俗学者2 田山花袋編』（中島千晴と共著）KADOKAWA 2021年3月
624頁

●論文

『「マンガのかきかた」の「棒人間」はどこから来たか』岡泰正編『美術フォー
ラム 21』美術フォーラム 21 2020年5月 94頁～100頁（依頼論文）

「「ていねいな暮らし」の戦時下起源と「女文字」の男たち」『webちくま』筑
摩書房 2020年5月 1頁～4頁（依頼論文）

「「外地」の翼賛一家 戦時下華北地方・日本統治下朝鮮の事例を中心に」大塚
英志編『TOBIO Critiques #4』太田出版 2020年7月 61頁～81頁（依頼
論文）

「戦時下の「共助」論——防毒マスクと「女生徒」」『webちくま』筑摩書房
2020年9月 1頁～5頁（依頼論文）

解題：柳田國男「伴を慕う心」、小林秀雄「漫画」、吉本隆明「位相論」、入我
亭我入「戯財録」、津野海太郎「勉強報告『世界定め』考」、柳田國男「口承
文芸史考」、夏目漱石「素人と黒人」、加太こうじ「紙芝居昭和史」、手塚治
虫「interview 手塚治虫 珈琲と紅茶で深夜まで…」、江藤淳「村上龍・芥川
賞受賞のナンセンス——サブ・カルチャーの反映には文学的感銘はない」
「日本と私」『日本大衆文化論アンソロジー』（著書欄参照）15頁～17頁、
他（依頼論文）

「1900年の画期」前川志織編『明治後期文芸雑誌表紙・一條成美挿画コレク

ジョン』国際日本文化研究センター 2021年3月 4頁～6頁（依頼論文）
「蘭学としての「漫画」 近現代略画・まんが入門書におけるライラッセ「大絵
画本」の系譜」明石陽介編『ユリイカ』第53巻第4号 青土社 2021年3
月 157頁～170頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

「まんがでわかるまんがの描き方」（砂威、浅野龍哉と共著）『ヤングエース』
KADOKAWA 2020年4月

書評「伊藤慎吾『南方熊楠と日本文学』」『週刊ポスト』 2020年5月

書評「ミヒャエル・H・カーター『SS先史遺産研究所アーネンエルベ』」『週
刊ポスト』 2020年6月

インタビュー「耕論 新型コロナ「新しい生活様式」の圧 日常に入り込んだ
公権力」『朝日新聞』 2020年6月20日

「まんが訳酒吞童子絵巻記事 絵巻物 漫画に再構成」『読売新聞』（夕刊）
2020年7月14日

インタビュー「「コロナ禍」への視線 「銃後ごっこ」から抜け出せ」『毎日新
聞』 2020年8月14日

書評「村上春樹『猫を棄てる』」『週刊ポスト』 2020年10月

書評「植本一子他『コロナ禍日記』」『週刊ポスト』 2020年10月

対談「いま、なぜ「近代文学」なのか？：教育と読者＝作者の生成、あるいは
言葉が作り出す「私」（紅野謙介と）」『早稲田文学』2020年冬号 早稲田文
学会 2020年12月

インタビュー「1970と夢のゆくえ 「ジョー」とよど号」『茨城新聞』他 共
同通信社 2020年12月6日

インタビュー「大塚英志が語る、日本の大衆文化の通史を描く意義「はみ出し
者こそが権力に吸収されやすい」」『リアルサウンド』株式会社 blueprint
2020年12月

書評「ミン・ジン・リー『パチンコ上・下』」『週刊ポスト』 2021年1月

インタビュー「「エヴァンゲリオン」25年目の完結 現代の分断社会を予見」
『日本経済新聞』（夕刊） 2021年1月18日

書評「デヴィッド・グレーバー『ブルシット・ジョブ』」『週刊ポスト』 2021
年2月

楠 綾子

●論文

「第1章 安全保障Ⅰ 「事態主義」の効用と限界」駒村圭吾、待鳥聡史編『統
治のデザインー日本の「憲法改正」を考えるために』弘文堂 2020年7月
6頁～26頁（依頼論文）

「サンフランシスコ講和条約・日米安保条約」筒井清忠編『昭和史講義【戦後

篇】(上)』ちくま新書 2020年8月 100頁～115頁(依頼論文)

「防衛分担金をめぐる日米関係」『防衛学研究』第63号 日本防衛学会 2020年9月 5頁～27頁(依頼論文)

「自治体による職員派遣の展開」五百旗頭真、御厨貴、飯尾潤監修、ひょうご震災記念21世紀研究機構編『総合検証 東日本大震災からの復興』岩波書店 2021年2月 290頁～306頁(依頼論文)

「小泉純一郎——「市民感覚」の政治、制度的権力の勝者」宮城大蔵編『平成の宰相たち——指導者16人の肖像』ミネルヴァ書房 2021年3月 209頁～243頁(依頼論文)

「野田佳彦——統治責任の模索」宮城大蔵編『平成の宰相たち——指導者16人の肖像』ミネルヴァ書房 2021年3月 389頁～417頁(依頼論文)

「冷戦下の日本外交の出発点 事例：サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約の選択」大矢根聡編著『戦後日本外交からみる国際関係』ミネルヴァ書房 2021年3月 3頁～11頁(依頼論文)

●その他の執筆活動

書評「板山真弓著『日米同盟における共同防衛体制の形成——条約締結から「日米防衛協力のための指針」策定まで』(ミネルヴァ書房、2020年)」『アメリカ太平洋研究』第21号 東京大学アメリカ太平洋研究センター 2021年3月

(38)

倉本 一宏

●著書

『現代語訳 小右記10 大臣関員騒動』吉川弘文館 2020年4月 317頁

『テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編』(佐藤信監修、新古代史の会編、仁藤敦史、他と共著)吉川弘文館 2020年5月 223頁

『旅が好きだ！21人が見つけた新たな世界への扉』(角田光代、他と共著)河出書房新社 2020年6月 190頁

『日記で読む日本史5日記から読む摂関政治』(監修、古瀬奈津子、東海林亜矢子著)臨川書店 2020年7月 228頁

『現代語訳 小右記11 右大臣就任』吉川弘文館 2020年10月 277頁

『古事談 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』KADOKAWA 2020年11月 336頁

●その他の執筆活動

「平安貴族列伝(10)～(28)」『JBpress』日本ビジネスプレス 2020年4月～2021年3月

「津というまち」『京都新聞』2020年5月18日

「伴・部・品部・部曲について」『日本史の研究』269 山川出版社 2020年6月

「歩くコンピュータ」『京都新聞』 2020年6月18日

「古代史の核心×革新1-4」『京都新聞』他各地方新聞 2020年12月20日～
2021年3月20日

フレデリック・クレインス

●著書

『企画展「明石博高と島津源蔵一京の近代科学技術教育の先駆者たち」』（松田清、川勝美早子、光平有希と共編著）国際日本文化研究センター 2021年1月 136頁

『ウィリアム・アダムス一家康に愛された男・三浦按針』筑摩書房 2021年2月 304頁

●論文

「オランダ商館長の記録にみる日本の自然災害」『學士會会報』No. 944 學士會 2020年9月 24頁～30頁（依頼論文）

「ウィリアム・アダムス（三浦按針）は何を成し遂げたのか——日欧交渉史における役割の再検討——」『日本関係欧文史料の世界』国際日本文化研究センター 2021年3月 1頁～9頁

●その他の執筆活動

「祇園祭との不思議な縁（現代のことば）」『京都新聞』（夕刊）2020年7月13日

「フロイス著『1588年日本年報』ローマ、1590年」『日文研』65号 国際日本文化研究センター 2020年9月

「中秋の名月に思うこと（現代のことば）」『京都新聞』（夕刊）2020年9月9日

「門掃き修行（現代のことば）」『京都新聞』（夕刊）2020年11月11日

「天明の大火：教訓伝える文学の力（日本人の忘れ物知恵会議）」『京都新聞』2020年12月9日

「底冷えと京町家（現代のことば）」『京都新聞』（夕刊）2021年1月19日

「ポンペ・ファン・メールデルフォールトによる近代科学教育の創始」「資料解説」『企画展「明石博高と島津源蔵一京の近代科学技術教育の先駆者たち」』（著書欄参照）

「御土居と京都らしさ（現代のことば）」『京都新聞』（夕刊）2021年3月17日

呉座 勇一

●著書

『教養としての歴史問題』（前川一郎編著、倉橋耕平、辻田真佐憲と共著）東洋経済新報社 2020年8月 258頁

●論文

「宣伝される大衆僉議—中世一揆論の再構築」荒木浩編『古典の未来学—Projecting Classicism』文学通信 2020年10月 406頁～416頁

「色川文書」所収の忠義王文書に関する一考察―受容過程を中心に― 神奈川
大学日本常民文化研究所『熊野水軍小山家文書の総合的研究』2021年3月
115頁～129頁

●その他の執筆活動

対談「「なぜ？」を問わない歴史教育の愚（ニッポン教育再生会議）（出口治明
と）」『文藝春秋』98(4) 文藝春秋 2020年4月

書評「多湖淳著『戦争とは何か―国際政治学の挑戦』中公新書」『朝日新聞』
2020年4月4日

書評「坂靖著『ヤマト王権の古代学―「おおやまと」の王から倭国の王へ』新
泉社」『朝日新聞』2020年4月11日

書評「木下聰著『斎藤氏四代一人天を守護し、仏想を伝えず』ミネルヴァ書
房」『朝日新聞』2020年4月25日

書評「春日太一著『時代劇入門』角川新書」『朝日新聞』2020年5月9日

書評「佐藤信編『古代史講義【宮都篇】』ちくま新書」『朝日新聞』2020年5
月16日

書評「馬部隆弘著『椿井文書―日本最大級の偽文書』中公新書」『朝日新聞』
2020年5月23日

書評「浮世博史著『もう一つ上の日本史』幻戯書房」『朝日新聞』2020年6月
6日

書評「山本博文著『徳川秀忠』吉川弘文館」「山本博文著『「関ヶ原」の決算
書』新潮新書」『朝日新聞』2020年6月13日

書評「黒田日出男著『岩佐又兵衛風絵巻の謎を解く』角川選書」『朝日新聞』
2020年6月27日

書評「石井妙子著『女帝 小池百合子』文藝春秋」『朝日新聞』2020年7月
18日

書評「山田昌弘著『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか？―結婚・出産が回
避される本当の原因』光文社新書」『朝日新聞』2020年8月1日

書評「樋口耕太郎著『沖縄から貧困がなくなる本当の理由』光文社新書」
『朝日新聞』2020年9月5日

書評「一ノ瀬俊也著『東條英機―「独裁者」を演じた男』文春新書」『朝日新
聞』2020年9月19日

書評「岡本隆司著『「中国」の形成―現代への展望』岩波書店」『朝日新聞』
2020年10月24日

書評「君塚直隆著『悪党たちの大英帝国』新潮社」『朝日新聞』2020年10月
31日

「歴史学界と偽書」『ユリイカ』第52巻第15号 青土社 2020年11月

書評「平山優著『戦国の忍び』角川新書」『朝日新聞』2020年11月21日

書評「北岡伸一著『明治維新の意味』新潮選書」『朝日新聞』2020年12月12日

書評「中元崇智著『板垣退助—自由民権指導者の実像』中公新書』『朝日新聞』

2021年1月23日

書評「火坂雅志著『北条五代』朝日新聞出版』『朝日新聞』 2021年2月6日

書評「森本あんり著『不寛容論—アメリカが生んだ「共存」の哲学』新潮選書』『朝日新聞』 2021年2月20日

書評「安田峰俊著『現代中国の秘密結社—マフィア、政党、カルトの興亡史』中央公論新社」
「安田峰俊著『「低度」外国人材』KADOKAWA』『朝日新聞』
2021年3月20日

白石 恵理

●著書

『環太平洋から「日本研究」を考える』（「国際日本研究」コンソーシアム編
[荒木浩、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダンと共編]）国際日本文
化研究センター 2021年3月 192頁（複数言語）

●論文

「明治期キリシタン版画にみる日本文化の表象」『DNP文化振興財団 学術研究
助成紀要』第3号 2020年11月 78頁～95頁（依頼論文）（複数言語）

「「ド・ロ版画」にみる日本文化の受容と展開」内田慶市編著『文化の翻訳とし
ての聖像画の変容 ヨーロッパ—中国—長崎』関西大学東西学術研究所／遊
文舎 2021年2月 29頁～48頁（依頼論文）（複数言語）

●その他の執筆活動

（翻訳）アンドレ・ヘイグ「アジア・環太平洋地域の帝国とディアスポラに関
する共同研究基盤としてのハワイ」『環太平洋から「日本研究」を考える』
（著書欄参照）

（翻訳）西野亮太「太平洋戦争の記憶と歴史を可視化する——南太平洋から見
る東アジア」『環太平洋から「日本研究」を考える』（著書欄参照）

関野 樹

●論文

“Time Information System, HuTime - A Visualization and Analysis Tool for
Chronological Information of Humanities.” *Proceedings of Digital Humanities
Conference 2020* (DH2020), Digital Humanities Conference 2020, July 2020,
1 page. （査読付き）

「あいまいな時間の処理」浅見泰司、薄井宏行編著『あいまいな時空間情報の
分析』古今書院 2020年12月 100頁～110頁

「HuTimeを使った年表・時系列グラフの共有」『情報処理学会シンポジウムシ
リーズ じんもんこん 2020 論文集』情報処理学会 2020年12月 101頁～
106頁（査読付き）

瀧井 一博

●著書

『明治』という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』（編著）ミネルヴァ書房
2020年10月 562頁

●論文

「知識交換の明治—大久保政権再評価への試論」『明治』という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』（著書欄参照）152頁～169頁

●その他の執筆活動

「現代のことば」（連載6回）『京都新聞』（夕刊）2020年4月1日～2021年2月9日

「政治学の古典を読む（三一）政治史の特殊性（坂野潤治『明治憲法体制の確立—富国強兵と民力休養』、東京大学出版会、一九七一年）」『究』第110号 ミネルヴァ書房 2020年5月

（翻訳）C. シュミット、F. ハルトゥング、E. カウフマン『第二帝政の国家構造とビスマルクの遺産』（初宿正典編訳 栗原良子、柴田堯史、宮村教平と共訳）風行社 2020年8月

「政治学の古典を読む（三二）原罪としての国家（エンゲルス（戸原四郎訳）『家族・私有財産・国家の起源』岩波文庫、一九六五年）」『究』第113号 ミネルヴァ書房 2020年8月

「政治学の古典を読む（三三）自由と国家（J. S. ミル（関口正司訳）『自由論』岩波文庫、二〇二〇年）」『究』第116号 ミネルヴァ書房 2020年11月

「知識国家への道しるべ」『アステイオン』CCCメディアハウス 2020年11月
書評「坂野潤治著『明治憲法史』」『東京新聞』2020年12月5日

「『憲法政治』への道—伊藤博文に学ぶ」、猪木武徳編『高校生のための 人物に学ぶ日本の政治経済史（シリーズ・16歳からの教養講座2）』ミネルヴァ書房 2021年1月

「政治学の古典を読む（三四）権力の分割とひとつの国制（A. ハミルトン、J. ジェイ、J. マディソン著（斎藤眞、中野勝郎訳）『ザ・フェデラリスト』岩波文庫、一九九二年）」『究』第119号 ミネルヴァ書房 2021年2月

「伊藤博文」「山県有朋」「井上毅」「穂積八束」「美濃部達吉」長妻三佐雄、植村和秀、昆野伸幸、望月詩史編著『ハンドブック近代日本政治思想史：幕末から昭和まで』ミネルヴァ書房 2021年2月

坪井 秀人

●著書

『二十世紀日本語詩を思い出す』思潮社 2020年9月 459頁

『翻訳と文学』（佐藤＝ロスベアグ・ナナ編、池澤夏樹、林圭介、佐藤美希、内山明子、邵丹、佐藤＝ロスベアグ・ナナ、管啓次郎と共著）みすず書房

2021年3月 264頁

●論文

「コラム「詩」」紅野謙介、内藤千珠子、成田龍一『〈戦後文学〉の現在形』平凡社 2020年10月 73頁～77頁（依頼論文）

「ジャポニスム／モダニズムの交差点としての〈和歌歌曲〉——和歌翻訳そしてストラヴィンスキー、山田耕筰らの音楽制作」（池澤夏樹、坪井秀人、林圭介、佐藤美希、内山明子、邵丹、佐藤＝ロスベアグ・ナナ、管啓次郎と共著）『翻訳と文学』みすず書房 2021年3月 27頁～84頁（依頼論文）

「転向を語ること——小林杜人とその周辺」Diego Cucinelli and Andrea Scibetta, eds., *Tracing Pathways 雲路：Interdisciplinary Perspectives on Modern and Contemporary East Asia*, Firenze University Press, March 2021, pp. 67–88.（依頼論文・査読付き）

●その他の執筆活動

「概観2020年 日本文学《近代》」日本文藝家協会編『文藝年鑑2020』新潮社 2020年7月

「今取り組んでいる課題テーマ」『文献継承』第37号 金沢文圃閣 2021年3月

ジョン・ブリーン

●著書

Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan. co-edited with Maruyama Hiroshi, Takagi Hiroshi eds., Renaissance Books, July 2020, 254 pages.

『鈴木大拙 禅を超えて』（山田奨治と共編著）思文閣出版 2020年10月 450頁

●論文

「鈴木大拙と神道 批判の構造」『鈴木大拙 禅を超えて』（著書欄参照） 287頁～291頁

“Ornamental Diplomacy: Emperor Meiji and the Monarchs of the Modern World.” Robert Hellyer and Harald Fuess eds., *The Meiji Restoration: Japan as a Global Nation*, Cambridge University Press, April 2020, pp. 232–248.（依頼論文・査読付き）

「令和の始まりに見る天皇制の現在」『ブリタニカ国際年鑑』ブリタニカ・ジャパン 2020年5月 119頁～123頁（依頼論文）

“Performing History: Festivals and Pageants in the Making of Modern Kyoto.” *Kyoto's Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan*,（著書欄参照） pp. 33–64.（査読付き）

「天皇、神話、宗教：明治初期の宗教政策」島蘭進、末木文美士、大谷栄一、西村明編『近代日本宗教史 第1巻 維新の衝撃——幕末～明治前期』春秋

社 2020年9月 35頁～65頁（依頼論文）

「勲章外交：明治天皇と世界の君主たち」瀧井一博編著『「明治」という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』ミネルヴァ書房 2020年10月 1頁～21頁（依頼論文）

“The Quality of Emperorship in 21st Century Japan: Reflections on the Reiwa Accession.” Mark Selden ed., *Asia Pacific Journal Japan Focus*, Volume 18, Issue 12, Number 1, Asia Pacific Journal Japan Focus, June 2020, PP. 1–23.（査読付き）

“Sannō Matsuri: Fabricating Festivals in Modern Japan.” Elisabetta Porcu and James Mark Shields, eds., *Journal of Religion in Japan* Volume 9, Issue 1–3, Brill, August 2020, pp. 78–117.（依頼論文・査読付き）

●その他の執筆活動

“Introduction: In Search of the Kyoto Modern.” *Kyoto’s Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan*.（著書欄参照）

“Preface” *Kyoto’s Renaissance: Ancient Capital for Modern Japan*.（著書欄参照）

「新型コロナウイルスの日々：日本とイギリスの間」『日文研』65号 2020年9月

「日文研の日々」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年3月

インタビュー「人コミュ通信 vol. 15 国際的・学際的な日本研究を体現、そしてその重要性を繋ぐ。—ジョン・グリーン教授へのインタビュー—」『国際日本文化研究センターウェブサイト』国際日本文化研究センター 2021年3月

(44)

前川 志織

●著書

『日本大衆文化史』（日文研大衆文化研究プロジェクト編著）KADOKAWA 2020年9月 358頁

『明治後期文芸雑誌表紙・一條成美挿画コレクション』（編集）国際日本文化研究センタープロジェクト推進室 2021年3月 99頁

●論文

「私と「アマチュア」の時代（1910–1920）」『日本大衆文化史』（著書欄参照） 128頁～176頁（デザイン領域）

「画家と画工—広告の図案制作者たち」『日本大衆文化史』（著書欄参照） 184頁～191頁

「洋画家・岸田劉生の初期の制作にみる古典性の投企—美術の複製メディアを手がかりに」荒木浩編『古典の未来学—Projecting Classicism』文学通信 2020年10月 517頁～535頁

「戦間期東アジアにおける森永製菓の新聞広告と広告戦略」石上阿希、山田奨治編著『文化・情報の結節点としての図像—絵と言葉でひろがる近世・近代

の文化圏』晃洋書房 2021年3月 122頁～132頁（査読付き）

●その他の執筆活動

「解題「ピラ・チラシのナンセンスさ」」（日文研大衆文化研究プロジェクト編
[編集委員：伊藤慎吾、内田力、佐野明子、大塚英志]）『日本大衆文化論ア
ンソロジー』太田出版 2021年2月

松木 裕美

●著書

『環太平洋から「日本研究」を考える』（「国際日本研究」コンソーシアム編
[荒木浩、白石恵理、ゴウランガ・チャラン・プラダンと共編]）国際日本文
化研究センター 2021年3月 192頁（複数言語）

『世界の日本研究』2020（編集）国際日本文化研究センター 2021年3月 158
頁（複数言語）

●論文

“Le jardin japonais comme champ des enjeux internationaux : tendances récentes
de la recherche.” Judith Delfiner ed., *Perspective* 2020-1, Institut national
d’histoire de l’art, June 2020, pp. 257–266. （査読付き）（フランス語）

●その他の執筆活動

「日本と世界をつなぐ」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究
センター 2020年8月

(45)

松田 利彦

●著書

『일본의 조선 식민지 지배와 경찰 [日本の朝鮮植民地支配と警察]』（李鐘暎、
李炯植、金玄訳）景仁文化社 2020年5月 730頁（韓国語）

●論文

「統治機構と官僚・警察・軍隊 [統治機構と官僚・警察・軍隊]」日本植民地
研究会編『日本植民地研究의 論点 [日本植民地研究の論点]』ソファ 2020
年7月 38頁～50頁（韓国語）

「戦後日本の朝鮮植民地支配問題認識—日韓国交未回復期（1945～65年）を中
心に」馬曉華編『新たな和解の創出 グローバル化時代の歴史教育学への挑
戦』彩流社 2020年8月 77～101頁

光平 有希

●著書

『企画展「明石博高と島津源蔵—京の近代科学技術教育の先駆者たち—」』（松
田清、フレデリック・クレインス、川勝美早子と共編著）国際日本文化研究
センター 2021年1月 136頁

●論文

「明治の国楽創成と音楽効用論—伊澤修二・神津仙三郎の身体観をめぐる—」
瀧井一博編著『「明治」という遺産—近代日本をめぐる比較文明史』ミネル
ヴァ書房 2020年10月 214頁～230頁

●その他の執筆活動

インタビュー「日文研の人文知コミュニケーター」『朝日新聞』（夕刊）2020
年4月16日

インタビュー「「音楽とは何か」に音楽療法史から迫る」『YAMAHA オンライン
マガジン「Inspired」』YAMAHA 2020年5月

「人文学研究と社会をむすぶ」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文
化研究センター 2020年8月

「〈口絵解説〉 ユージーン・アルノー作曲〈ミカド・ボルカ〉、ルドルフ・
ディットリヒ作曲〈落梅〉」『日本研究』第61集 国際日本文化研究センター
2020年11月

「明石博高と舎密局—お雇い外国人たちとの関係を軸に—」「明石博高と近代医
療」「創業の背景—京都の近代化のなかで—」「資料解説」『企画展「明石博
高と島津源蔵—京の近代科学技術教育の先駆者たち—」』（著書欄参照）

「医療文化史 宗田文庫が伝え」『京都新聞』2021年1月22日

「「主題と変奏—臨床便り」第48回—音楽と慰め」『臨床心理学』編集委員会
『臨床心理学』第21巻第2号 金剛出版 2021年3月

「〈口絵解説〉江戸期のくすり関連資料（日文研「宗田文庫」より）」『日本研
究』第62集 国際日本文化研究センター 2021年3月

安井 真奈美

●論文

「小特集「思いがけないお産の民俗」から見えてくること」「「思いがけないお
産」の研究と今後の課題」『日本民俗学』303 日本民俗学会 2020年8月
57頁～59頁、128頁～133頁

「特集について—比較日本文化研究という視座」『比較日本文化研究』20 比較
日本文化研究会 2020年10月 7頁～18頁

「出産と妊産婦・胎児の死—四半世紀の研究（1995–2020）」『比較日本文化研
究』20 比較日本文化研究会 2020年10月 32頁～45頁

“Imagining the Spirits of Deceased Pregnant Woman: Analysis of Illustrations of
Ubumi in Early Modern Japan.” *Japan Review* vol. 35, December 2020, pp. 91–
112（査読付き）（複数言語）

●その他の執筆活動

エッセイ「土方久功とパラオのストーリーボード」『季刊民族学』173号 国
立民族学博物館 2020年7月

エッセイ「女と妖怪—うぶめを中心に」 染谷智幸、金文京、小峯和明、ハル
オ・シラネ編『東アジアの自然観—東アジアの環境と風俗』4 文学通信
2021年3月

エッセイ「シドニーの「ジャパン・スーパーナチュラ」展に関わって」「国
際日本研究」コンソーシアム編『荒木浩、白石恵理、松本裕美、ゴウラン
ガ・チャラン・プラダン編』『環太平洋から「日本研究」を考える』国際日
本文化研究センター 2021年3月

会議報告等「シンポジウム「災いから考える文化のレジリエンス」」『総研大文
化フォーラム2020 報告集：文化のレジリエンスとは？：〈異〉をつなぎ、未
来へ』 2021年3月

山田 奨治

●著書

『鈴木大拙 禅を超えて』（ジョン・グリーンと共編著）思文閣出版 2020年
11月 423頁

『文化・情報の結節点としての図像—絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』
（石上阿希と共編著）晃洋書房 2021年3月 146頁

●論文

「テレビCMが育てた大林宣彦」『ユリイカ』第52巻第10号（9月臨時増刊号）
青土社 2020年8月 78頁～84頁（依頼論文）

「父としての鈴木大拙」『現代思想11月臨時増刊号 鈴木大拙生誕150年 禅
からZenへ』 青土社 2020年10月 165頁～172頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

「アメリカ大衆文化への鈴木大拙の影響」山田奨治、ジョン・グリーン編『鈴
木大拙 禅を超えて』思文閣出版 2020年11月

（翻訳）ジェームズ・ドビンズ「鈴木大拙と動物愛護」山田奨治、ジョン・ブ
リーン編著『鈴木大拙 禅を超えて』思文閣出版 2020年11月

（翻訳）アリス・フリーマン「鈴木大拙による「日本的霊性」と仏教の戦争責
任への問い——占領期日本のもうひとつの歴史（1945-1952）」山田奨治、
ジョン・グリーン編著『鈴木大拙 禅を超えて』思文閣出版 2020年11月
解説「浮世絵の顔」こどもくらぶ編『ビジュアル 顔の大研究』丸善出版
2020年12月

インタビュー「懐かしのテレビ脚本 京に」『京都新聞』（夕刊）2020年12月
22日

「共同研究会「縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点か
ら」について」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター
2021年1月

「はじめに ことばとイメージの文化圏」『文化・情報の結節点としての図像—

絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』（著書欄参照）

インタビュー「鈴木大拙親子の研究書 舞台に」『京都新聞』 2021年3月9日

マルクス・リュッターマン

●論文

「二つの『中世』における『ウルクンデ＝シャルト』vs『文書』 その概念的
対置およびシンボル形式的比較によせて」河内祥輔、小口雅史他編『儀礼・
象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化』思文閣出版 2021年1月
169頁～180頁

劉 建輝

●著書

『마성의도시상하이 — 일본 지식인의 '근대' 체험』昭明出版 2020年7月
288頁（韓国語）

『CHINA GRAPHY—日本のまなざしに映った中国』（深尾葉子、伊藤謙と共著）
国際日本文化研究センター 2021年1月 100頁

●論文

「反转的现代主义—租借地大连的都市空间与文化生产」『東北亜外語研究』2020
年第2期 大連外国語大学 2020年6月 18頁～23頁（依頼論文）（中国語）

「初めに言葉ありき——九世紀初頭来華プロテスタント宣教師の文化活動とそ
の影響」『『新世紀人文学論究』（田中寛先生古希・退職記念論集）』第4号特
別記念号 大東文化大学 2021年3月 45頁～52頁（依頼論文）

「大連の近代都市空間形成とその文化生産」『北東アジア研究』（別冊6） 島根
県立大学北東アジア地域研究センター 2021年3月 219頁～226頁（依頼
論文）

●その他の執筆活動

「学术主持人語・日本文学中的中国城市表象」『東北亜外語研究』2020年第2
期 大連外国語大学 2020年6月（中国語）

「日中200年—文化史からの再検討」『SGRA レポート』NO. 76 渥美国際交流
財団関口グローバル研究会（SGRA） 2020年6月

講演資料等「私の歩んできた道」大東文化大学『新世紀人文学研究会』新世紀
人文学研究会 2021年3月

講演資料等「コロナ時代からの人文主義—課題と展望—」大東文化大学『新世
紀人文学研究会』新世紀人文学研究会 2021年3月

「来舶清人研究ノート—附『来舶清人参考文献』『来舶清人一覧表』」『日本研
究』第62集 国際日本文化研究センター 2021年3月